

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな	こうえきざいだんほうじん にほんせんちゆりーこうきょうがくだん			団体ウェブサイトURL
制作団体名	公益財団法人 日本センチュリー交響楽団			https://www.century-orchestra.jp/
代表者職・氏名	理事長 桜井 博志			
制作団体所在地	〒	561-0885	最寄り駅(バス停)	阪急電鉄 岡町駅
	大阪府豊中市岡町1-1 きたしん豊中ビル6F			
電話番号	06-6848-3333			
ふりがな	にほんせんちゆりーこうきょうがくだん			団体ウェブサイトURL
公演団体名	日本センチュリー交響楽団			https://www.century-orchestra.jp/
代表者職・氏名	楽団長 望月 正樹			
公演団体所在地	〒	561-0873	最寄り駅(バス停)	北大阪急行 緑地公園駅
	大阪府豊中市服部緑地1-7			
制作団体 設立年月	1989年 5月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	理事長:桜井 博志 副理事長:望月 正樹 専務理事:小田 弦也 他 理事、評議員、監事		楽団員 2管10型(定員55名) 事務局員 17名 加入条件 楽団員はオーディションにより採	
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者 を置く		本事業担当者名	西岡 千博・澤木 仁美
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理責任者名	武田 嘉子

<p>制作団体沿革</p>	<p>大阪府のオーケストラとして1989年に発足。府民への公募で『大阪センチュリー交響楽団』と命名される。2011年に大阪府から独立し、現在の名称である『日本センチュリー交響楽団』となる。ウリエル・セガルが名誉指揮者を、飯森範親が首席指揮者を、秋山和慶がミュージックアドバイザーを、久石譲が首席客演指揮者を務める。</p> <p>ザ・シンフォニーホールで開催するシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」に加えて、パートナーオーケストラとして事業運営に携わる豊中市立文化芸術センターでの「豊中名曲シリーズ」と、大阪府下2拠点で定期的な演奏会を開催している。ジャンルを超えた様々な形態のコンサートにも積極的に取り組み、依頼公演、室内楽コンサート、学校公演等を合わせて年間200回を超える公演を行っている。</p> <p>「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念に基づき、演奏を通して多くの人々の心に明るい夢が広がることを願い、新しい時代のオーケストラとして発展を目指し、活動している。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>【Touch The Orchestra】 当団の練習場であるセンチュリー・オーケストラハウスにおいて、小学校高学年を対象に、体験型コンサートを2003年度より開催。延べ4万名の大阪府下の小学生が参加。</p> <p>【豊中市との連携事業】 2018年度より豊中市との連携により、中学生舞台芸術体験事業『ホールでオーケストラ』(中学1年生対象、合同鑑賞会)を毎年開催、2021年度からは小学生を対象とした公演も開催している。</p> <p>【大阪市北区との連携事業】 大阪市北区役所事業として、区内中学校の吹奏楽部、音楽部への指導を行うと共に、中学校や小学校の合同鑑賞会を開催している。</p> <p>その他、学校へ出向いての室内楽公演や青少年向けの公演を2022年度については20公演程度予定している。</p>			
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<p>【特別支援学校コンサート】 大阪府内の特別支援学校の児童・生徒を対象に、完全バリアフリーのホール(国際障害者交流センター)にて、オーケストラコンサートを年1度開催している。2019年度より文化庁「障害者による文化芸術活動推進事業」に4年連続採択。</p> <p>【支援学校アンサンブルコンサート】 大阪府内の支援学校に出向いてのアウトリーチ型の室内楽公演を年5公演開催している。2020年度より、上記、文化庁「障害者による文化芸術活動推進事業」の採択内容の一部として、オーケストラコンサートに出向くことが難しい学校や生徒を対象とした公演として、オーケストラコンサートとの一貫性をもって実施している。</p> <p>以上の公演については、参加費を徴収しない招待型の公演として2004年度より毎年継続して開催しており、大阪府下の支援学校に通う児童生徒にとって、生のオーケストラに触れることのできる貴重な機会として、教員のみならず保護者の方からも大変好評をいただいている。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=9FFWvZJUMoE</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>不要</p>	
		<p>PW:</p>	<p>不要</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 日本センチュリー交響楽団 】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	日本センチュリー交響楽団の 一緒につくろう！オーケストラ♪		
本公演演出 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【小学校プログラム】 ビゼー：歌劇「カルメン」より第1幕への前奏曲 楽器紹介コーナー 三村総徹編：手拍子協奏曲「Clip!Beat!Clap!2」 一休憩15分 指揮者体験コーナー（体験者2～3名） ①チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」よりトレパック ※ ②オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲よりカンカン ※ 徳山美奈子：大阪素描写り祭 ①チャイコフスキー：バレエ音楽「くるみ割り人形」より花のワルツ ※ ②オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲 ※ (Enc.)各校校歌</p> <p>※指揮者体験とメイン曲は同じ番号同士で対応</p>	<p>【中学校プログラム】 グリンカ：「ルスランとリュドミラ」序曲 楽器紹介コーナー オッフェンバック：喜歌劇「天国と地獄」序曲 一休憩15分 選択制プログラム(以下のうちどれか1つを選択) ・吹奏楽部との共演 ①ヴァンデルロースト：アルセナール／②真島敏夫編：宝島 ・合唱共演 ①翼をください／②あすという日が ・オーケストラ鑑賞 ビゼー：歌劇「カルメン」よりアラゴネーズ、ジプシーの踊り 指揮者体験コーナー（体験者2名） プラームス：ハンガリー舞曲第5番 徳山美奈子：大阪素描写り祭 スメタナ：連作交響詩「我が祖国」よりモルダウ (Enc.)各校校歌</p>	公演時間 90 分
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演出概要	初めてオーケストラを聴く子どもたちが、音楽に対する壁(敷居が高く難しいものであるというイメージ)をなくし、最後まで飽きずに、オーケストラの魅力を感じることができる曲目で構成しました。子どもたちの成長過程に沿った公演とするため、小学生プログラムと中学生プログラムをそれぞれ用意しており、公演が進むごとにより深く音楽に親しめるよう、またワークショップとの繋がりがより濃くなるような選曲を意識しています。それぞれの作品は全て親しみやすい旋律でありながら、曲ごとに異なる性格を持っています。各曲の共通点や相違点を感じ取ることににより音楽に対する感性を働かせ、音楽の多様性に気付くと共にオーケストラへの親しみを深めてもらいたいと考えています。		
演出選択理由	公演が進むにつれ曲の難易度が高くなるように組んでおり、子どもたちの鑑賞能力を自然に無理なく高められるよう選曲し、構成しています。各曲は3分～10分程度の演奏時間となっており、初めてオーケストラを体験する子どもたちにとっても飽きずに集中して聴けるサイズの作品を選択しています。また作品の性質としては、親しみやすいメロディーと芸術性、および曲想やその変化など楽曲を特徴づける要素を感じ取ることができる作品であること、当団規模のオーケストラが学校の体育館で演奏することで大きな演奏効果を上げられる作品であることを念頭に置き、子どもたちが気負うことなく接することができる、且つオーケストラの魅力を感じることができる作品を選んでいきます。子どもたちと共演する作品についても、自発的な活動を引き出すことのできる楽しい音楽や、共に音楽を作り上げた達成感を得られる内容を盛り込んだものを取り入れています。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【指揮者体験コーナー】学校代表の児童・生徒が、オーケストラの指揮者を体験します。</p> <p>【手拍子協奏曲「Clip! Beat! Clap!2」(小学校プログラム)】楽団オリジナルの作品で、オーケストラと子どもたちによる手拍子の共演です。日本の民謡やワゲン音楽など、計7種類のリズムパターンを手拍子で表現し、世界中の様々なジャンルの音楽を体感します。</p> <p>【合唱での共演(中学校プログラム)】学校の希望がある場合は、オーケストラの伴奏で歌唱共演をします。</p> <p>【器楽での共演(中学校プログラム)】学校の希望がある場合は、吹奏楽部とオーケストラの共演コーナーを設けます。</p> <p>【校歌のプレゼント(小中学校プログラム共通)】校歌をオーケストラ版にアレンジし、アンコールで演奏します。公演の記念として、楽譜とオーケストラの伴奏を録音したCDを贈呈します。</p>		
出演者	指揮：佐々木新平 他 管弦楽：日本センチュリー交響楽団(2管10型)		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 59 名 スタッフ： 7 名 合計： 66 名	運搬	積載量： 4 t 車長： 8 m 台数： 2 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出
	9時	9時～12時		13時30分～15時	15分	15時～16時30分	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。							

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	9日			5日	2日	
	11月	12月	1月	計	33日	
	9日	1日	7日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	～1000名(体育館のサイズ、共演演目による)
		鑑賞人数目安	～1000名(体育館のサイズによる)



セッティングが完了した様子
小学校の体育館を使用した場合の写真です。
舞台サイドにある黒い屏風のようなものは、
楽器ケース等が、児童生徒の集中を削がないための
目隠しとして持ち込んでいます。

公演の様子①
舞台上に、打楽器(ティンパニ)と
ホルンを除く金管楽器を配置しています。
セッティング完了後の写真の通り、
舞台下には楽団から持ち込む平台を設置し、
児童生徒のみなさんから少しでもよく
各楽器が見えるよう、工夫しています。



公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



公演の様子②小学校公演
手拍子協奏曲『Clip Beat Clap! 2』の様子。
打楽器奏者によるナビゲートで
子ども達との共演を更に楽しく盛り上げます。

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

公演の様子③中学校公演
吹奏楽部との共演の様子。
事前のワークショップで学んだことを
オーケストラの中、それぞれ楽器を演奏する
楽団員のすぐ隣で一緒に演奏し、
成果を発表していただけます。
またとない、特別な機会となることでしょう。



児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	～1000名(実施会場のサイズによる)
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>小学校・中学校共に90分のワークショップを実施いたします。物理面、心理面共に、子ども達との距離感ができるだけ近くなるような工夫を取り入れ、実施いたします。作曲家に扮した演奏者が登場してワークショップを進めたり、演奏者の周りを囲むように児童生徒に座っていただき、正面だけでなくあらゆる角度から演奏する様子を見ていただくなど、様々な工夫を凝らし、実施をしています。</p> <p>【小学校プログラム】 コンサート雰囲気慣れ、音楽や楽器、オーケストラに興味を持って本公演に臨むことができるようにすることを目標としています。 ワークショップの前半はコンサートの楽しみ方について、拍手などの聴衆の表現方法を体験しながら、コンサートが演奏だけでなく、客席と舞台、双方向のコミュニケーションによって成り立つことを伝え、実際に体験していただきます。また、オーケストラの歴史や楽器の種類と仕組み、音楽の要素について演奏を交えながら説明をしていき、オーケストラを身近なものとして受け入れることができる環境を作っていきます。 後半は、リズムアンサンブルなど実際に子ども達が能動的に参加する場面をより多く設けます。子ども達自らが参加することによって、音楽やコンサートを共に作るという体験し、コンサートは双方向のコミュニケーションによって成り立つものであるという実感を強めていただきます。子ども達とのコミュニケーションを図り、奏者やオーケストラを身近なものとして感じてもらうことで、本公演への期待感、オーケストラへの親近感を、更には、ワークショップ全体を通じてコンサートに積極的に参加する意識を高めます。</p> <p>【中学校プログラム】 吹奏楽部との共演がある学校:共演曲の技術指導を行います。ワークショップの前半は、木管楽器、金管楽器、打楽器とセッションごとのグループに分かれて、生徒それぞれのレベルに合わせた技術指導を行います。後半は合奏練習により、アンサンブル力の向上や楽曲への理解を促します。また、ワークショップの最後には講師によるソロコンサートも行い、プロの奏者の演奏を間近で体感していただきます。時間の許す限り、子ども達の疑問点に対応し、顧問の先生とのコミュニケーションも密にして、より良い演奏を共に目指します。 吹奏楽部との共演がない学校:小学校プログラムでのワークショップの内容に加え、西洋音楽の発展が現代ポップス音楽へと続く音楽史を学ぶ要素を加えて、知的興味を深められるよう、また、本公演のプログラムへの理解を更に深められるように構成しています。合唱での共演を希望される場合は、指導状況、レベルを確認した上で、オーケストラの奏者からという普段の授業の指導とは別の目線からの課題を子ども達に提示します。ちょっとした工夫で音楽の表現が豊かになることや、音楽を作る楽しさを体験することで、音楽表現についての興味関心を高めます。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>本公演のプログラムを積極的に楽しめるように、また、本公演への期待感を高めることをねらいとして実施いたします。導入として、演奏者それぞれ愛称をお伝えしたり、作曲家に扮した演奏者がワークショップを進めてゆく演出などで『オーケストラの人』を身近に感じてもらうところからはじめます。その後、徐々に内容を深くしてゆくことで、ワークショップの時間を通じて文化芸術への理解を深め、鑑賞能力を高めていただきます。ワークショップの中でのアンサンブル体験や楽器の指導を通じて、課題を見つけ提示し、子ども達には本公演までの期間にその課題の解決に取り組んでいただくことによって、文化芸術へ自ら積極的に興味を持って参加する意識を高められるように構成しています。</p> <p>普段の音楽の授業とは違う新たなアプローチによって、音楽への更なる興味や理解を促すことで、本公演をより効果的に実施できるようにすることが、このワークショップの大きな意義であると考えます。</p> <p>ワークショップ、本公演を通じて、他者と協働しながら、コンサートへの積極的な参加をすることによって、学校生活や日常のさまざまな場面での積極性や、これから必要となる共生社会への参画意識が高まることに繋がることを期待しています。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>各学校の状況をヒアリングし、それぞれの学校に合せた構成のご提案が可能です。 また、体育館のみならず、参加規模によっては、多目的ルームなどでの開催も可能です。 2022年度事例:支援学校でのワークショップで参加者30名規模の40分の公演を3回行った。等</p>		